

# 関西経済レポート(1月号)

- ❖ 11月の鉱工業生産指数は前月比-4.8%下落した。3カ月ぶりのマイナスも10-11月平均は前期比2カ月ぶりのプラス。
- ➡ 12月の輸出額は前年比+14.7%と22カ月連続のプラス。輸入額は同+4.6%と2カ月ぶりのプラス。結果、貿易収支は+510億円と2カ月ぶりの黒字となり、黒字幅は前年同月比1,280億円改善した。
- ➡ 12月の景気ウォッチャー現状判断DIは3カ月ぶりの改善。先行き判断DIは6カ月ぶりの改善。同月の消費者態度指数も5カ月ぶりに前月比改善。消費者心理に下げ止まりの動きがみられる。
- ➡ 12月の大型小売店販売は6カ月連続の前年比プラスで小幅改善を続けている。
- ❖ 12月の新設住宅着工戸数は4カ月連続の大幅減。持家と貸家、分譲が全て前年比減少した。
- ➡ 12月の有効求人倍率は3カ月連続で改善し高水準を維持。失業率は横ばいだが、非労働力人口減少と就業者数増加がみられ、雇用環境は改善傾向。
- ❖ 12月の公共工事請負金額は前年比-13.7%と2カ月連続のマイナス。11月の建設工事は前年比+3.2%と31カ月連続のプラスも、伸びは8カ月連続で1桁。
- ❖ 2014年10-12月期の中国の実質GDP成長率は前年同期比+7.3%となり、前期と横ばい。2014通年では前年比+7.4%で、2009年以来の低い値となった。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。  
鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所  
“Kansai Economic Insight Monthly”と連携しています。

# ～ 関西経済のトレンド ～

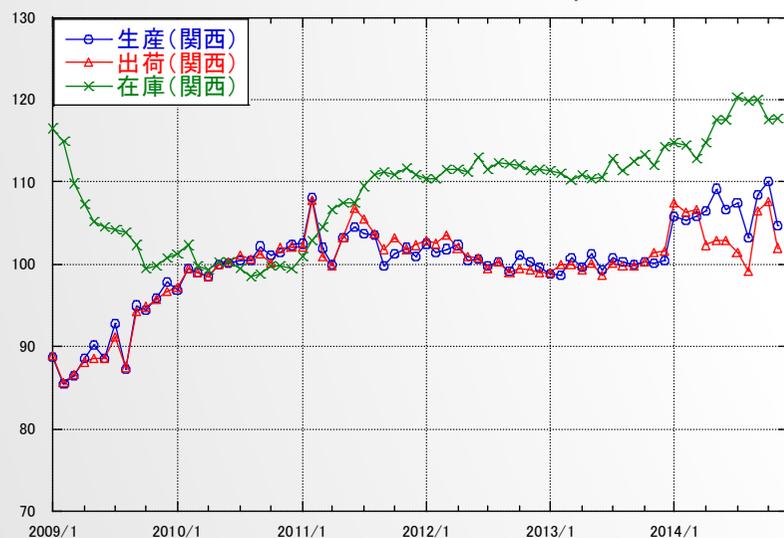
	2014年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生産	➡	➡	⬇	⬆	⬆	⬇	⬆	⬇	⬆	⬆	⬇	
貿易	⬇	⬆	⬇	⬆	➡	⬇	⬆	➡	➡	⬆	➡	⬆
センチメント	⬇	⬇	⬇	⬇	⬆	⬆	⬆	⬇	⬇	⬇	⬇	⬆
消費	⬆	⬆	⬆	⬇	➡	➡	➡	⬆	⬆	⬆	⬆	⬆
住宅	⬆	⬇	➡	⬆	⬇	➡	⬇	⬆	⬇	⬇	⬇	⬇
雇用	⬆	➡	➡	➡	⬆	➡	➡	➡	➡	⬆	⬆	⬆
公共工事	⬇	⬇	⬇	⬆	⬆	➡	➡	➡	⬇	⬆	⬇	⬇
中国	➡	➡	➡	➡	➡	⬆	⬆	⬇	⬆	➡	⬇	⬇

## ～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向①	7

## ～生産～

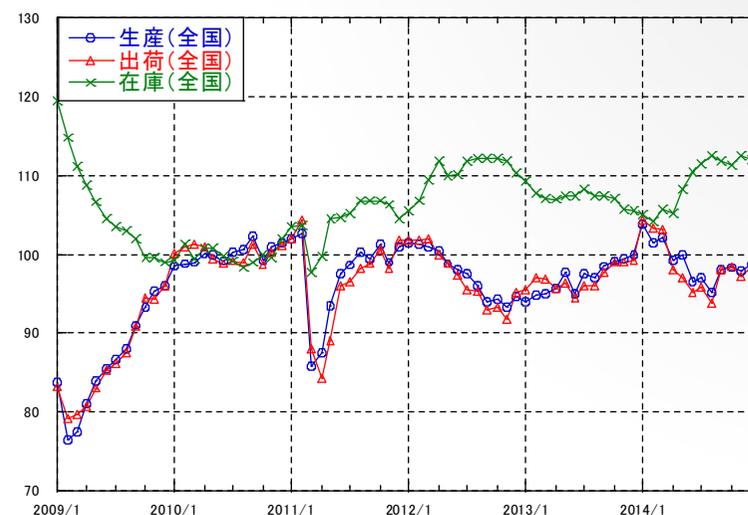
鉱工業指数の推移(近畿・2014年11月まで), 2010年=100



(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

- 関西における11月の鉱工業指数(確報値：季節調整済)は、生産は104.7で前月比-4.8%、出荷は102.1で同-5.2%といずれも3カ月ぶりの下落。  
一方、在庫は117.7で同+0.1%と、2カ月ぶりの上昇となった。
- 業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(同-11.2%)、金属製品(同-12.1%)、化学(除. 医薬品)(同-3.7%)等が下落した。一方、窯業・土石製品(同+1.9%)、プラスチック製品(同+1.3%)、石油・石炭製品(同+4.2%)等が上昇した。
- 関西の生産は前月から一転減産となったが、10-11月平均を7-9月期と比較すると、+0.8%と2期ぶりの増加となっている。

鉱工業指数の推移(全国・2014年12月まで), 2010年=100

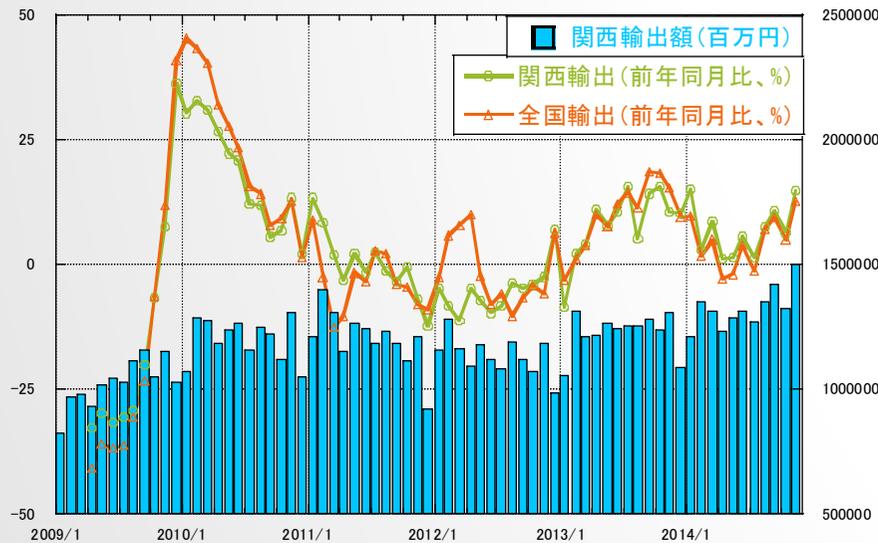


(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

- 全国における12月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は98.9となり前月比+1.0%、出荷は98.3で同+1.1%といずれも2カ月ぶりの上昇。在庫は112で同-0.4%と2カ月ぶりの下落となった。結果、10-12月期の生産指数は7-9月期に対して+1.8%、出荷指数は同+2.2%と、いずれも3期ぶりのプラス。
- 業種別にみると、電子部品・デバイス(同+5.2%)、情報通信機械(同+10.8%)、化学(除. 医薬品)(同+2.5%)等を中心に増産となった。一方、金属製品(同-1.7%)、鉄鋼(同-1.4%)、その他(同-0.3%)は減産となった。
- 前月の製造工業生産予測調査(11月調査)では、12月は前月比+3.2%と増産の予定であったが、足下、生産は予測を下回った。同12月調査では、1月は同+6.3%と増産だが、2月は同-1.8%と減産の見込みである。

# ～輸出入～

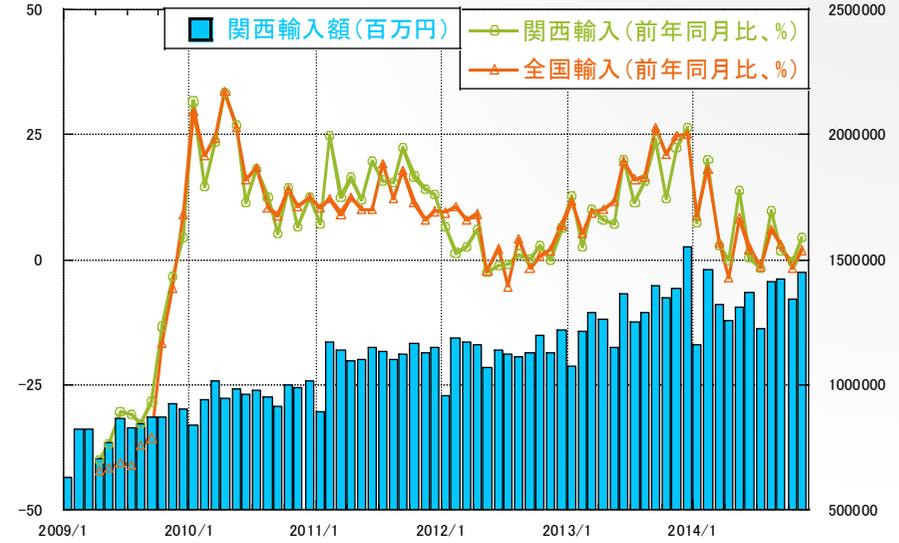
輸出動向（右：輸出額、左：前年同月比）（2014年12月まで）



（出所）大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

- 関西12月の輸出額(速報値)は1兆5,005億円となり、前年同月比+14.7%と22カ月連続の増加。
- 財別に見れば、輸出増加に主に貢献したのは、半導体等電子部品(同+23.8%, 単月過去最高)、科学光学機器(同+23.5%, 過去最高)である。一方、鉱物性燃料と半導体等製造装置が減少となった。
- 全国12月の輸出額(確定値)は6兆8,931億円となり、前年同月比+12.8%と4カ月連続の増加。財別に見れば、自動車、半導体等電子部品、鉄鋼等の輸出が増加した。
- 10月末の日銀の金融緩和に伴い、税関長公示レートで見て前年同月から約16.1%の円安となったため、輸出額の増加が見られる。

輸入動向（右：輸入額、左：前年同月比）（2014年12月まで）

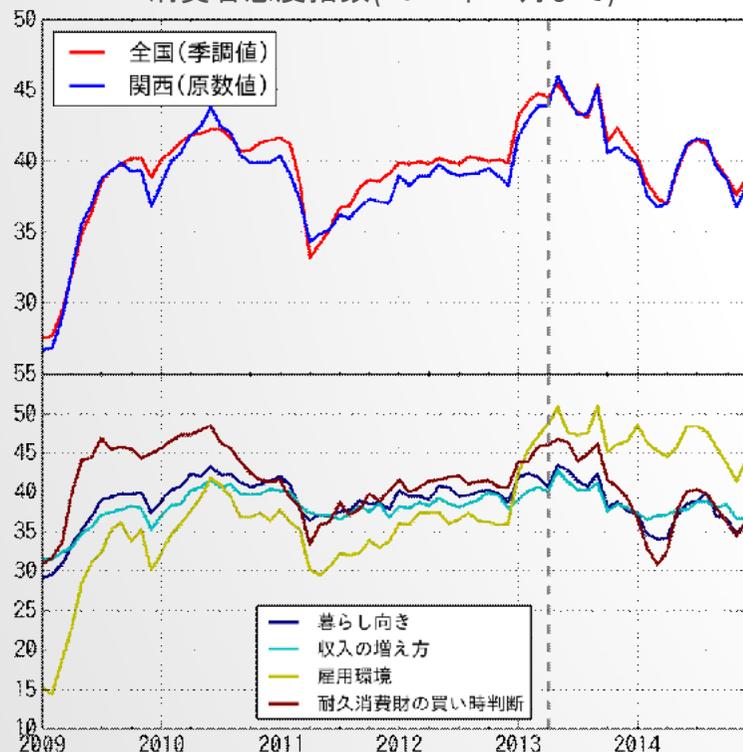


（出所）財務省「貿易統計」

- 関西12月の輸入額(速報値)は1兆4,495億円、伸びは前年同月比+4.6%と2カ月ぶりの増加。
- 財別に見れば、天然ガス及び製造ガス(同+15.6%, 過去最高)、半導体等製造装置(同+500.2%, 単月過去最高)が増加した。
- 全国12月の輸入額(速報値)は7兆5,583億円、前年同月比-1.9%と2カ月ぶりの増加。財別に見れば、液化天然ガス、通信機、航空機類が増加した。
- 結果、12月関西の貿易収支（速報値）は+510億円と2カ月ぶりの黒字となり、前年同月から1,280億円改善した。全国12月の貿易収支（速報値）は-6,652億円と30カ月連続の赤字も、赤字幅は同-49.1%縮小した。

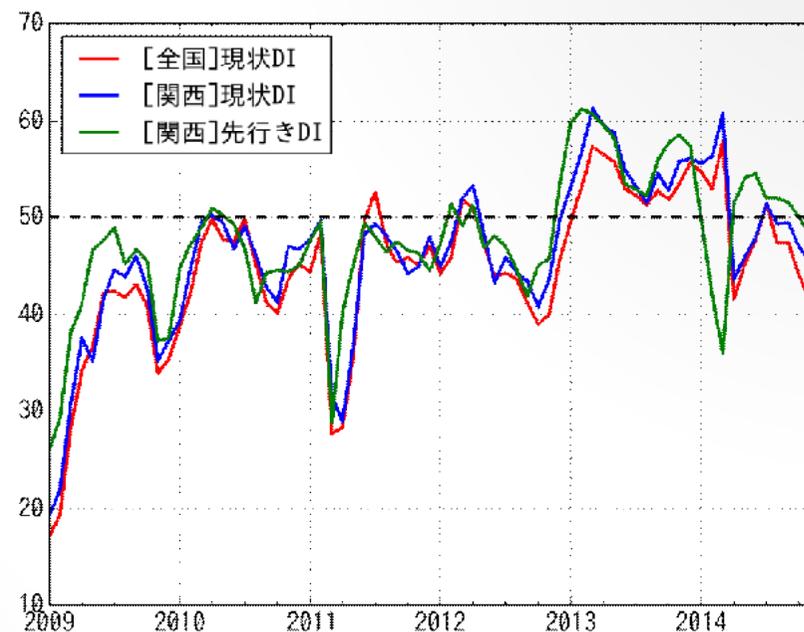
# ～消費者センチメント～

消費者態度指数(2014年12月まで)



(出所)内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査(2014年12月まで)

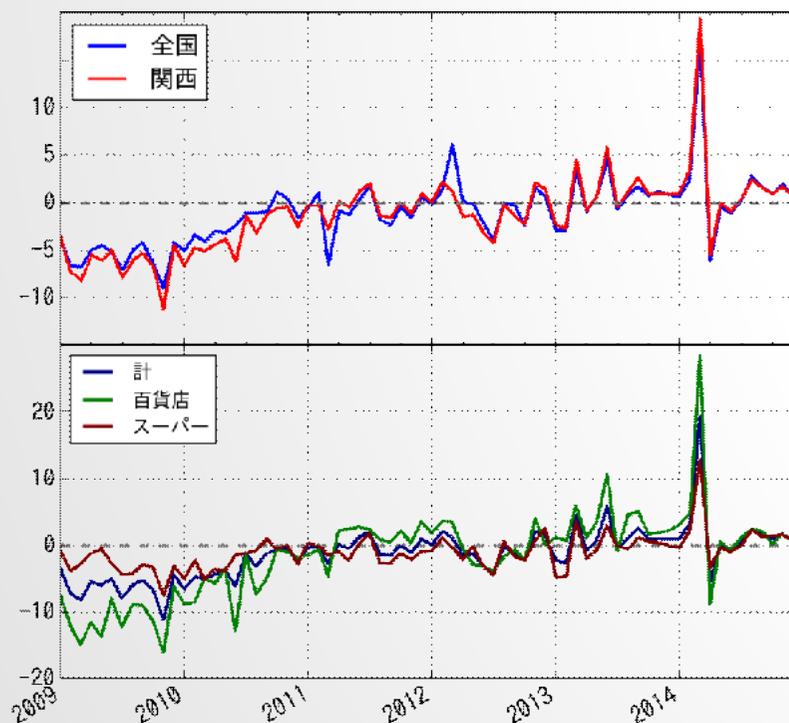


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

- 関西の12月の消費者態度指数(原数値)は前月比+1.5ポイントの38.3と、5カ月ぶりの改善。
- 全国(季節調整値)でも同+1.1ポイントの38.8と5カ月ぶりに改善しており、消費者心理に下げ止まりの動きがみられる。
- 関西で同指数の構成項目をみると、4指標のうち3指標が前月からプラスに転じ、1指標は同横ばいとなった。
- 「暮らし向き」は同+1.2ポイントと4カ月ぶりの改善。「雇用環境」は同+2.8ポイントと6カ月ぶりの改善、「耐久消費財の買い時判断」は同+2.0ポイントと5カ月ぶりの改善。一方「収入の増え方」は前月のマイナス(同-1.8)から横ばいに転じた。
- 関西の12月の現状判断DIは前月比+2.2ポイント上昇し47.6となった。3カ月ぶりの改善。冬のボーナス増加を背景にクリスマス・年末商戦が好調に推移したことに加え、訪日外国人の消費の拡大がセンチメントを好転させたようである。
- 全国も同+3.7ポイントと5カ月ぶりに改善し45.2となった。
- 先行き判断DIは、関西では48.6と同+0.4ポイントの上昇。消費増税延期によるプラスの効果もあり6カ月ぶりの改善となったが、小幅にとどまった。
- 全国は46.7となり、同+2.7ポイントの上昇。7カ月ぶりに改善している。

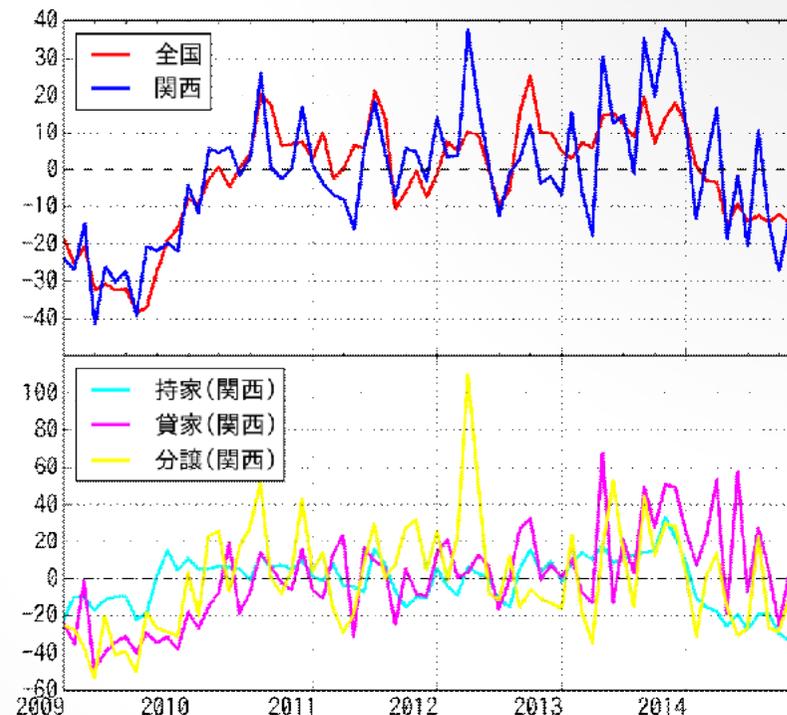
# ～個人消費・住宅～

大型小売店販売額(前年同月比:%、2014年12月まで)



(注)福井県を含む。  
(出所)経済産業省「商業動態統計」

新設住宅着工(前年同月比:%、2014年12月まで)

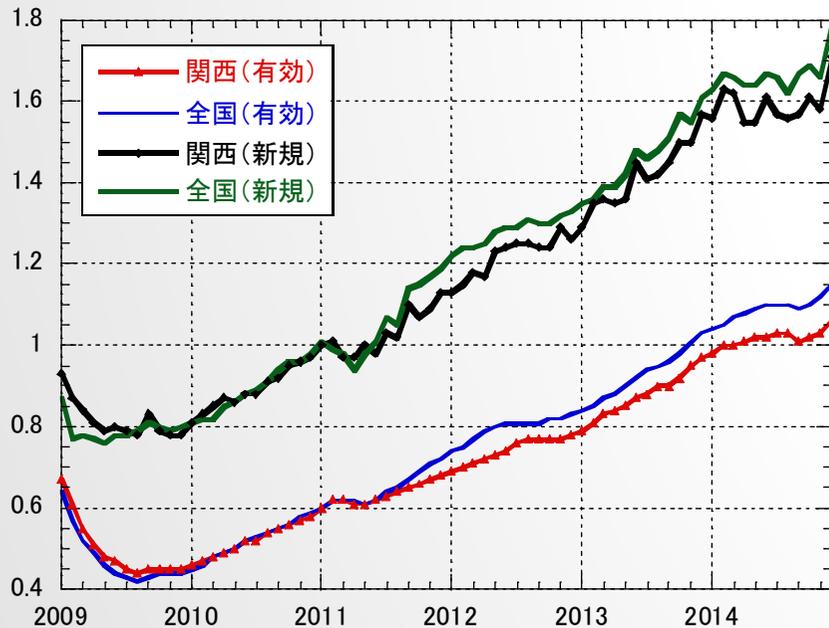


(出所)国土交通省「住宅着工統計」

- 関西の12月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+0.7%と6カ月連続のプラス。
- 百貨店も同+0.8%と6カ月連続のプラス。
- スーパーも同+0.7%と5カ月連続のプラス。
- 全国でも、12月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+0.7%と6カ月連続のプラスとなっている。
- 関西、全国ともに消費は緩やかながら改善を続けている。
- 関西の12月の新設住宅着工戸数は11,625戸。前年同月比-21.1%と2桁の大幅減が4カ月続いている。
- 全国でも同-14.7%と10カ月連続の減少。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は同-25.1%と11カ月連続で2桁の大幅減となっている。分譲も同-33.0%と2桁減が4カ月続いている。貸家も同-8.5%と2カ月ぶりに減少した。
- なお、12月の関西マンション契約率は74.8%(季節調整値、APIR推計)となった。好不調の目安となる70%を39カ月連続(原数値は11カ月連続)で上回り、販売は好調を維持。

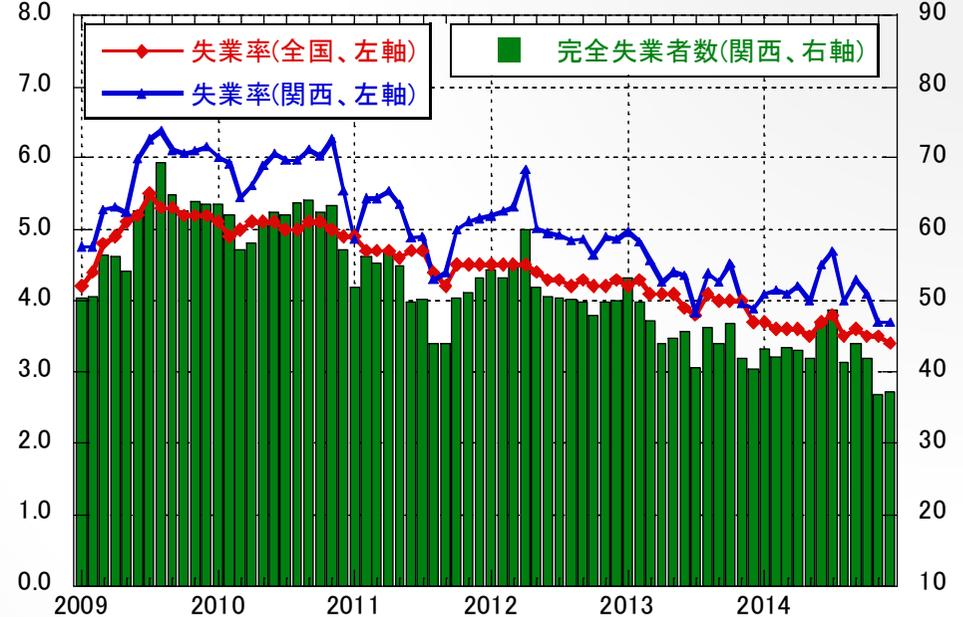
# ～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2014年12月まで）



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

完全失業率の推移（季節調整値：%、万人、2014年12月まで）



(出所) 総務省「労働力調査」

関西2府4県有効求人倍率(2014年12月)

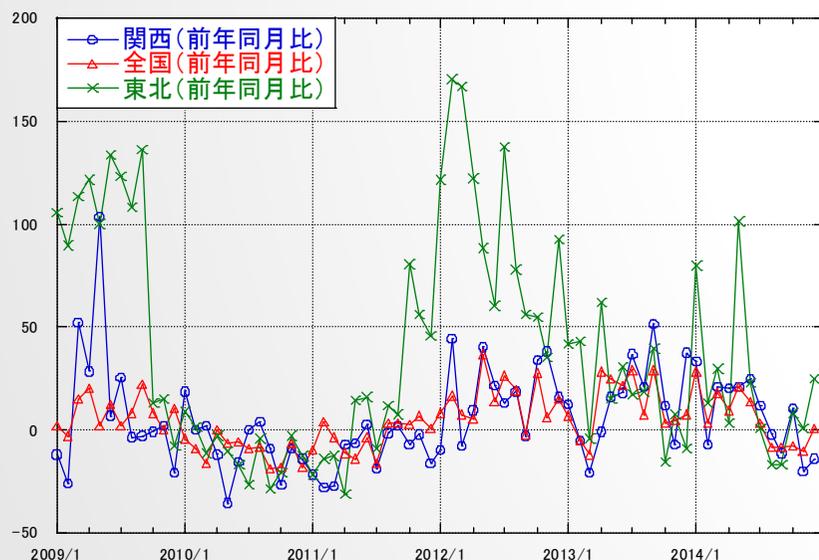
12月	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
受理地別	1.15	1.06	1.00	1.12	1.14	0.96	0.86	0.96
就業地別	1.14	1.06	1.19	1.15	1.03	1.05	0.99	1.05

- 12月の関西の有効求人倍率は、1.06倍と前月比+0.03ポイント上昇し、3カ月連続の改善となった。全国は1.15倍で前月比+0.03ポイント上昇し、こちらも3カ月連続の改善。1992年3月(1.19倍)以来の高水準であった。
- 12月の関西の新規求人倍率は、1.71倍と前月比+0.13ポイントと大幅上昇し、2カ月ぶりの上昇となった。全国も1.79倍と同+0.13ポイントと2カ月ぶりの上昇。雇用環境は着実に改善している。
- 関西の有効求人倍率を府県別にみると、受理地別では全ての府県で改善した。就業地別では滋賀県が前月比+0.08ポイントと最も上昇が大きかった。

- 12月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は3.7%となり、前月(3.7%)から横ばい。非労働力人口の減少(労働力人口の増加)と就業者数増加がみられ、雇用環境は改善傾向と考えられる。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は37.2万人。前月(36.9万人)から+0.3万人と小幅増加。
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.4%となり、前月(3.5%)から-0.1ポイント低下した。非自発的な離職が減少したことによる。1997年8月(3.4%)以来の低水準を記録。
- 全国の15～64歳の就業率(原数値ベース)をみると、73.1%と前月(73.0%)と比べて幾分上昇した。15～64歳の女性の就業率は64.4%と前月(64.5%)と比べて小幅下落したが高水準が続いている。

# ～公共投資～

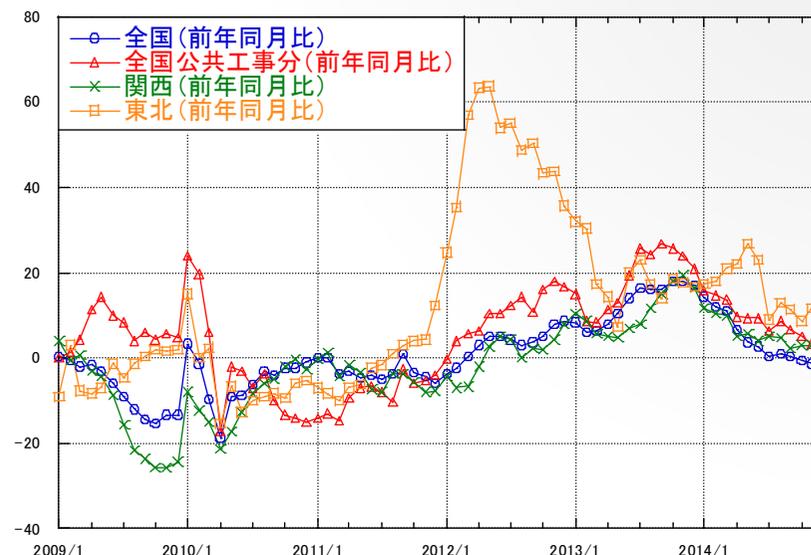
公共工事請負額(前年同月比:%、2014年12月まで)



(注)福井県を含む。  
(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

- 12月関西の公共工事請負金額は972億円の前年同月比-13.7%と2カ月連続のマイナスかつ2桁の減少となった。
- 全国は8,945億円と同+1.0%と5カ月ぶりの増加。
- 東北は1,806億円と同+25.2%と大幅上昇し、3カ月連続の増加となった。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西、全国共に3カ月ぶりに前月から大幅な増加となった(関西：同+25.0%、全国：同+49.4%)が、10-12月期は対前期比(関西：同-27.8%、全国：同-26.4%)でいずれも2期連続で大幅減少となっており、減速幅は前期から拡大している。

建設工事(前年同月比:%、2014年11月まで)

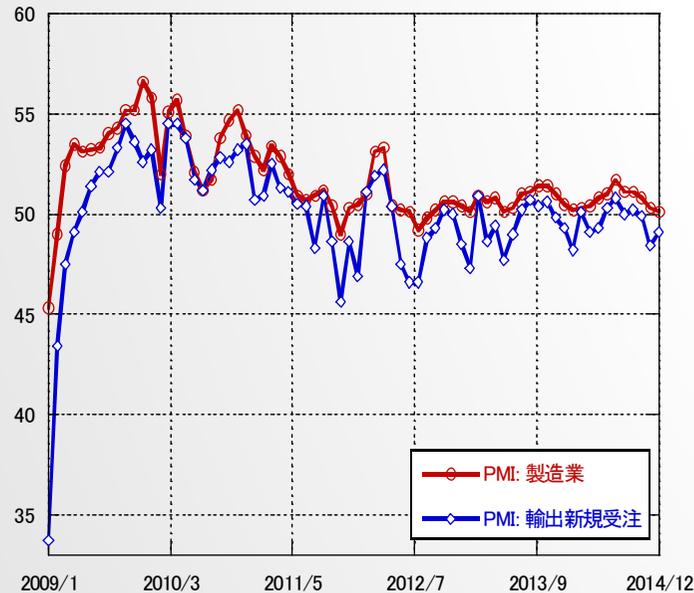


(出所)国土交通省「建設総合統計」

- 関西11月の建設工事は5,878億円、前年同月比+3.2%と31カ月連続の増加も、伸びは8カ月連続で1桁となった。
- 東北は6,596億円、同+11.8%と40カ月連続の増加。
- 全国の建設工事は4兆7,146億円となり同-1.4%と2カ月連続の減少。うち公共工事は2兆2,474億円と同+3.5%と34カ月連続の増加も、伸びは8カ月連続で1桁にとどまった。
- 公共工事の受注の減少もあり、建設工事の伸びは停滞している。

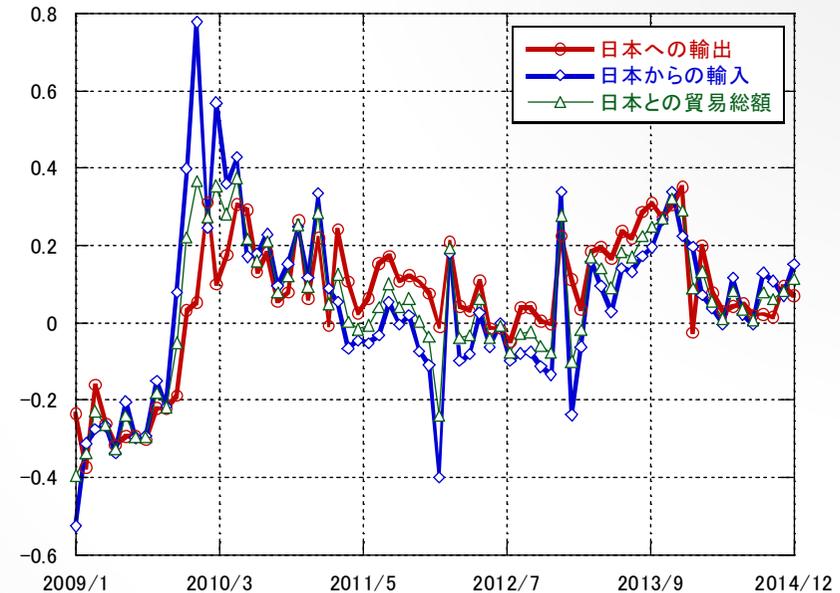
# ～中国経済動向①～

製造業購買担当者景況指数 (2014年12月まで: %)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2014年12月まで: %)



(出所) 中国税関; CEICデータベース (APIR計算)

- 12月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は50.1となり、前月から-0.2ポイント低下し、3カ月連続の悪化。
- うち、生産指数は52.2と同-0.3ポイント低下し、3カ月連続の悪化。新規受注指数は50.4となり、同-0.5ポイント低下し、5カ月連続の悪化。輸出新規受注指数は同+0.7ポイント上昇し(3カ月ぶりのプラス)49.1となったが3カ月連続で50を下回っている。雇用指数は48.1となり、前月から-0.1ポイント低下し、2カ月連続のマイナスとなった。2012年6月以来、31カ月連続で50を下回っている。大部分の領域で景況指数は悪化している。

- 12月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比+9.7%増加し、9カ月連続のプラスとなった。輸入額は同-2.3%(速報値)となり、2カ月連続のマイナスとなった。
- うち日本への輸出額は同-7.2%となり、5カ月連続のマイナスとなった。日本からの輸入額は同-0.1%となり、2カ月連続のマイナスとなった。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+7.0%となり、10カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同+15.1%となり、4カ月連続のプラスとなった。

## ～中国経済動向②～

固定資産投資 (2014年12月まで:%) (累積伸び率)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 2014通年の固定資産投資(名目)は前年比+15.7%となった。累積ベースでは6カ月連続で減速している(1-11月期: 同+15.8%)となっている。
- 産業別に見れば、第1次産業は同+33.9%(1-11月期: 同+29.9%)、第2次産業は同+13.2%(1-11月期: 同+13.3%)、第3次産業は同+16.8%(1-11月期: 同+17.1%)となった。

GDP成長率(前年同期比) (2014年10-12月期まで:%)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 2014年10-12月期の実質GDP成長率は前年同期比+7.3%となり、前期と横ばい。市場コンセンサスを上回る結果であった。しかし8%を下回る成長率が11期続いている。なお2014通年の実質GDP成長率は前年比+7.4%で、2009年以来の低い値となった。
- 業種別にみると(通年ベース)、第1次産業の成長率は同+4.1%、第2次産業は同+7.3%、第3次産業は同+8.1%となった。

## ※関西経済のトレンド 評価基準について

- センチメント：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- 生産：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- 雇用：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- 消費：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 住宅：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 公共工事：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 貿易：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。